

PENTAX®

ESPIO70·E

QUARTZ DATE


使用説明書










このたびは、ペンタックスESPIO 70・E（エスピオ70・E）デパートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ70・E」は、38ミリ広角から70ミリまでの撮影が可能なズームコンパクトカメラです。

フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、赤目軽減などいろいろな機能を搭載しています。

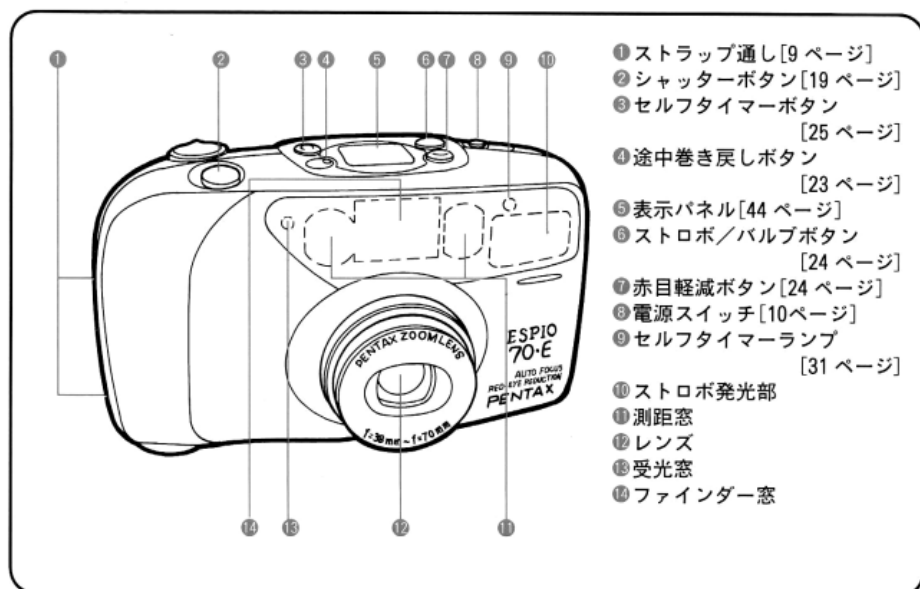
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 説明文中の  内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

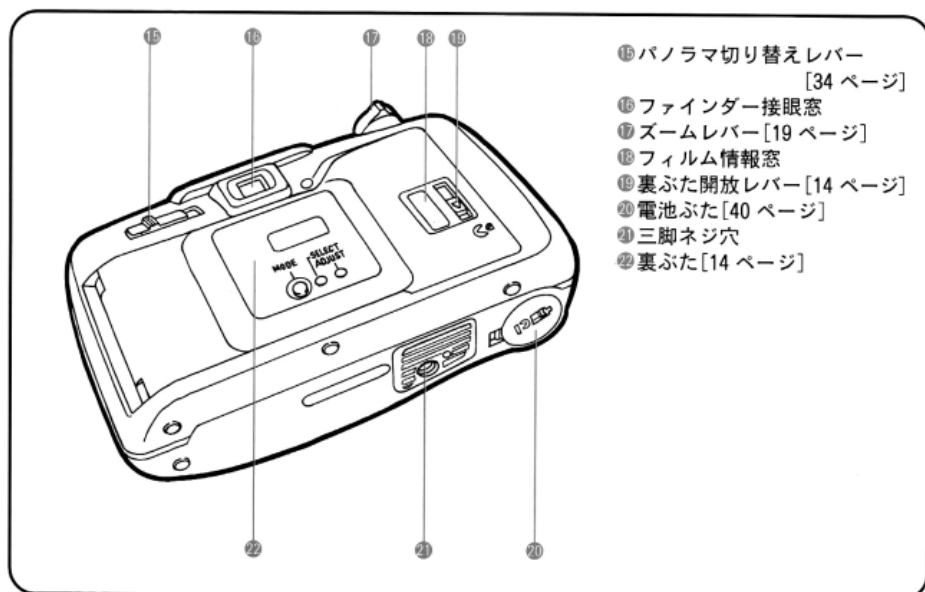
記号について

操作の方向	
自動的に動きます	
注目してください	
点灯します	
点滅します	
正しい	
間違い	

各部の名称



各部の名称 (背面)




この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告






このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意




このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性のあることを示すマークです。

 は、禁止事項を表わすマークです。

 警告

-  カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
-  落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に手をふれないでください。感電の危険があります。
-  ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
-  太陽を直接見ないでください。長時間見ていると目を痛めることがあります。
-  電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

 注意

-  目の近くでストロボを発光させないでください。目を痛めることがあります。特に、乳幼児にはご注意ください。
-  電池をショートさせたり、火の中に入れてしないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
-  カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- 強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

- レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- 業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
- 高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- カメラの使用温度範囲は-10℃~50℃です。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

3

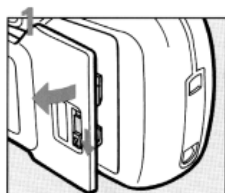
目次

カメラを安全にお使いいただくために	1
取り扱い上の注意	3
使い方は簡単です	5
こんな写真を撮るには?	6
撮影前の準備をしましょう	
1. ソフトケース	8
2. ストラップ	9
3. 電源スイッチの確認をしましょう	10
4. 電池の確認をしましょう	11
5. カメラの構え方	12
6. ズーミングを試みましょう	13
フィルムを入れて撮影しましょう	
1. フィルムを入れましょう	14
• フィルム感度について	16
2. ファインダー内表示	17
3. ランプ表示と撮影距離	18
4. 撮影しましょう	19
5. フィルムを取り出しましょう	22

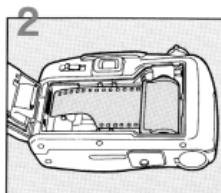
いろいろな撮影をしましょう

いろいろな機能の選び方/赤目軽減機能	24
日中シンクロ撮影	26
低速シャッター撮影	27
低速シンクロ撮影	27
逆光補正	28
バルブ撮影	29
バルブシンクロ撮影	29
セルフタイマー撮影	30
フォーカスロック撮影	32
パノラマ撮影	34
写真に日付や時刻を写し込みます	37
電池の消耗警告	40
電池の交換	40
こんなときは?	42
表示パネル[グラフィックパネル]	44
ストロボ撮影可能距離と赤目現象	46
アフターサービスについて	47
主な仕様	48
クイックガイド	50

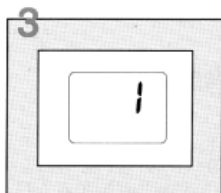
使い方は簡単です。[通常の撮影手順]



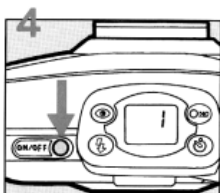
裏ぶたを開けます。
[14 ページ]



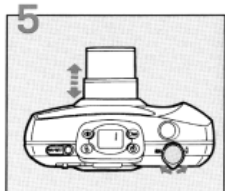
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[15 ページ]



自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[16 ページ]



電源スイッチを押して電源をONにします。
[10ページ]



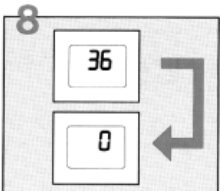
ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
[19 ページ]



写したいものにオートフォーカスフレームを合わせます。[19 ページ]



シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります[20ページ]



フィルムが終わると自動的に巻き戻しが始まります。[22ページ]

5

こんな写真を撮るには？



ストロボ関係

- 暗い所で写真を撮りたい.....20
- ストロボ撮影で目が赤く写らないようにしたい.....24
- 逆光で影になっている人物の顔を明るく写したい.....26、28
- 夕景をバックに人物を写したい.....27
- 夜景をバックに人物を写したい.....29



ズーミング関係

- 写したい物を大きくしたり小さくしたりしたい.....19



人物撮影関係

逆光で影になっている人物の顔を明るく写したい	26、28
夕景をバックに人物を写したい	27
夜景をバックに人物を写したい	29
自分自身も写真に写りたい	30



風景撮影関係

夕景をバックに人物を写したい	27
夜景を撮りたい	29
夜景をバックに人物を写したい	29

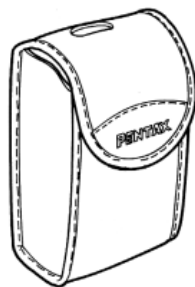


その他

写真に日付を入れたい[消したい]	37
------------------	----

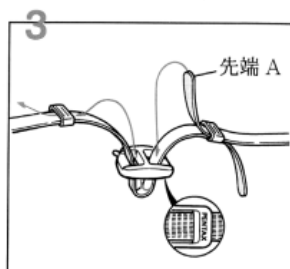
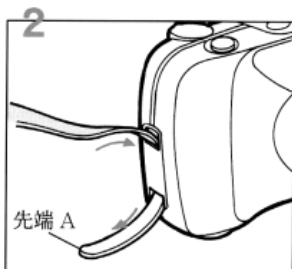
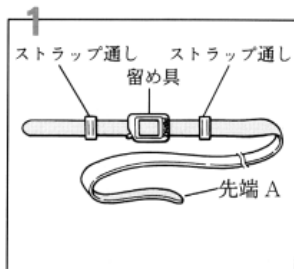
1 ソフトケース

撮影前の 準備をしましょう



ケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源スイッチについては、10ページをご覧ください。]

2 ストラップ

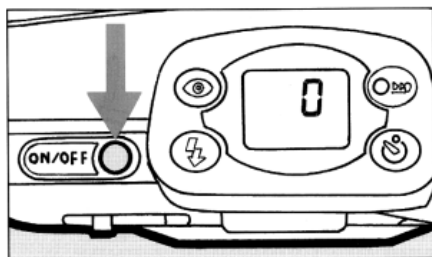


1. ストラップに、ストラップ通し・留め具を図のように通します。
2. ストラップの先端Aをカメラのストラップ通しに通します。
3. ストラップの先端Aをもう一方の先端側から図のようにストラップ通し→留め具→ストラップ通しの順に通します。

※ ストラップの図の部分はウォータードートの修正ボタンを押すとき、電池ぶたを開けるときおよび途中巻き戻しのときにご利用ください。

9

3 電源スイッチの確認をしましょう

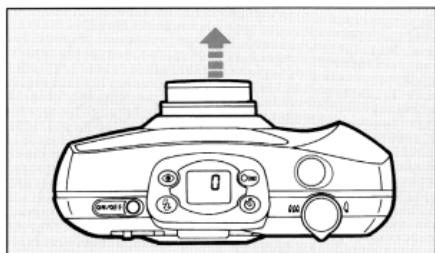


スイッチを押すと電源が入り[電源ON]、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。
もう一度押すと電源が切れます[電源OFF]。


※ 使用しないときは、必ずOFFにしてください。

※ 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。この場合、再び電源をONにすれば電源OFF直前の状態に自動的に戻ります。ただし、焦点距離は常に38mmになります。

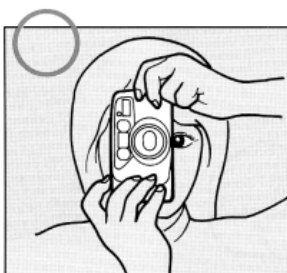
● 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。



電源をONにしたとき、レンズが少し前に出れば撮影できます。

※ 表示パネルに  マークが出ているときは、電池が消耗していますので40ページをご覧ください。

※ 3Vリチウム電池[CR123A相当品] 1本を使用します。電池を抜くと日付や時刻の修正が必要となりますので、電池消耗時以外は、電池を抜かないでください。

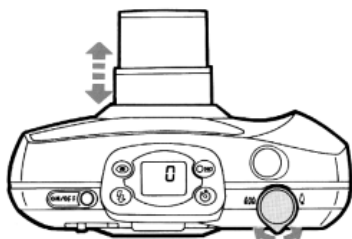




撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。[強く押すとカメラが動いて、きれいな写真が撮れません。]

※ 木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。

※ カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。影が自然な方向に出ます。

- レンズはズーミングにより動きますので、レンズ部分を持つと、落下などの原因になります。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。



ズームレバーを  側に回すと、遠くのを大きく写せる 70mm側へ、 側に回すと広い範囲を写せる 38mm広角側へ動きます。

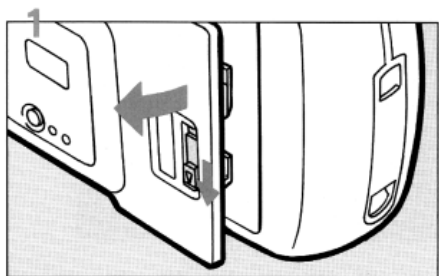
※ ファインダーを見ながら、好みの大きさになったところで止めて撮影してください。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

フィルムを入れて 撮影しましょう

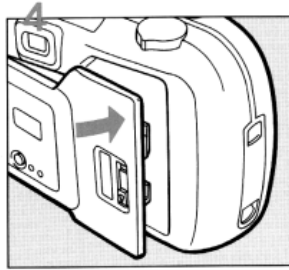
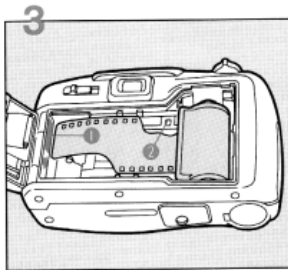
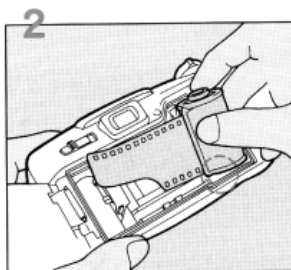
フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから入れましょう。

1 フィルムを入れましょう [電源をOFFにします。]

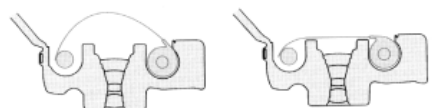


1. 図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。

※ スライド用のリバーサルフィルムを使うと、きれいな写真（適正露出）にならない場合があります。撮影にはネガカラーフィルムの使用をお勧めします。



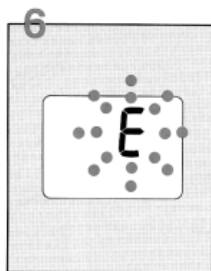
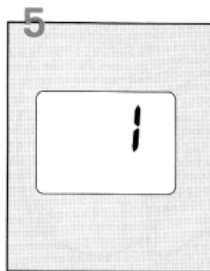
2. フィルムの凸側を上にして、下側から先に入れ、次に上側を入れます。
3. フィルムを少し引き出して①のフィルム先端マークに合わせます。
4. 裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。



×フィルムのたるみあり ○フィルムのたるみなし

- フィルムがまっすぐ入っていることを必ず確認してください。
- フィルム検知部にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。
- 左図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。
- フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをバトロローネに少し押し戻します。
- フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直してください。

15



5. 上図のように、フィルム枚数表示の **1** が出て自動的に止まります。必ず枚数表示が **1** になっていることを確認してください。
6. フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに **E** が点滅して知らせます。フィルムを正しく入れ直してください。

※ フィルム枚数や **E** 表示は、電源をOFFにしても約5秒間表示されます。

フィルム感度について フィルム感度自動セット

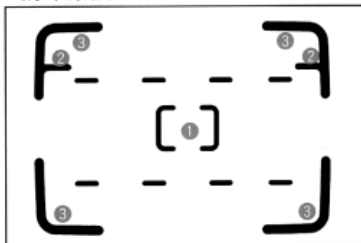
このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

- ※ ISO25~1600までのフィルムが使えます。
- ※ フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

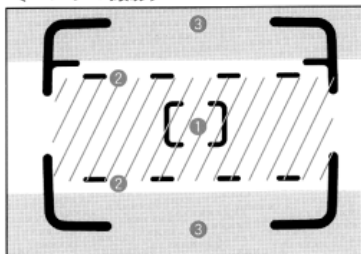
- ISO800以上の高感度DXフィルムは室内や暗い所での撮影にご利用ください。
- ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。

16

<標準撮影>



<パノラマ撮影>



標準撮影

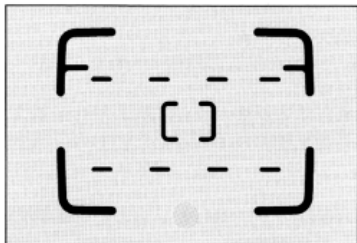
- ①オートフォーカスフレーム
ピントを合わせたいものをこの内側に入れてください。
- ②近距離視野補正枠
標準撮影で、撮影する距離が1m付近より近距離では、近距離視野補正枠より下に写したいものを入れてください。
- ③視野枠
標準撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

パノラマ撮影


- ①オートフォーカスフレーム
ピントを合わせたいものをこの内側に入れてください。
- ②視野枠
パノラマ撮影で写る範囲です。写したいものを点線の枠内[斜線内]に入れて撮影してください。
- パノラマ撮影にすると②のようにファインダー内の上下が暗くなりますが、この表示はパノラマ撮影での写る範囲ではありませんので、写したい物は必ず②の点線のパノラマ視野枠[斜線]内に入れて撮影してください。






17

ランプ表示と撮影距離



ファインダー内には、図の緑ランプ表示があります。


緑ランプ  点灯[撮影可能]
点滅[近距離警告、ストロボ充電中]



- ※ 緑ランプ  は、シャッターボタンを少し押しすと表示されます。
- ※ 緑ランプ  点滅は、撮影距離が近すぎるかストロボ充電中を知らせます。撮影するときには、必ず緑ランプ  点灯を確認してください。緑ランプ  点滅中は、シャッターは切れません。
- ※ ストロボ充電中は、表示パネルの  表示も点滅します。

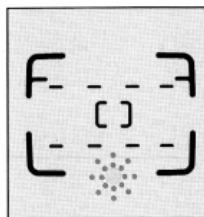
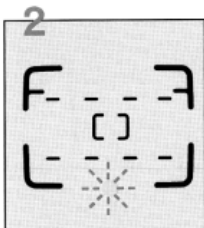
撮影距離[標準・パノラマとも同様]




- 撮影は0.6m～∞の範囲で可能です。



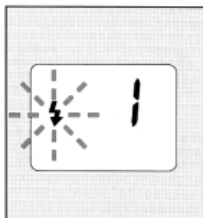
1. ズームレバーで写したい物を好みの大きさにし、オートフォーカスフレームを写したい物に合わせます。
2. シャッターボタンを少し押すと自動的にピントが合い緑ランプ  が点灯します。

※ 緑ランプ  が点滅した場合は、ストロボ充電中か撮影距離が近すぎます。ストロボ充電中であれば、シャッターボタンから指を離し、しばらくしてから押し直して、点灯に変われば撮影できます。距離が近すぎるときは、もう少し離れて、緑ランプ  の点灯を確認して撮影してください。



- ※ ストロボ充電中で緑ランプ  が点滅しているときは、表示パネルの  も点滅をして知らせます。
- ※ 一度緑ランプ  が点灯してから別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。
- ※ 測距窓が汚れていると、正しいピント合わせができなくなりますのでご注意ください。
- ※ ピントが合うのは、0.6m より遠くです。

19




3. シャッターボタンを押して撮影します

- ※ シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。
- ※ サービスサイズのカラープリント [パノラマプリントを含む] では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。
- ※ ズーミング中は、シャッターが切れません。

ストロボ自動発光

写したいものが暗いときは、ストロボが自動的に発光します。

- ※ ストロボが自動的に発光する場合には、シャッターボタンを少し押すと、左図のように表示パネルに  が表示されます。
- ※ このカメラには、ストロボ発光直前にセルフタイマーランプを約1秒間点灯させることによる赤目軽減機能が付いています。詳しくは24 ページおよび46 ページをご覧ください。
- ※ 電源をOFFからONにすれば、常にストロボ自動発光のモードになります。
- ※ ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなる場合がありますが、異常ではありません。

ストロボ撮影できる距離 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	100	200	400
38mm (◆◆◆)	0.6~3.5m	0.6~5.0m	0.6~7.0m
70mm (◆)	0.6~2.0m	0.6~2.8m	0.6~4.0m

これ以外のフィルム感度については、46 ページをご覧ください。

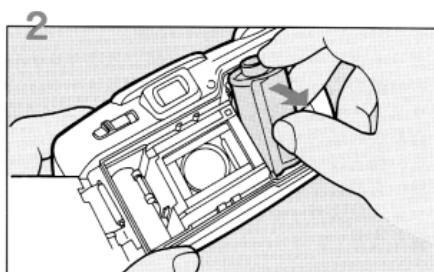
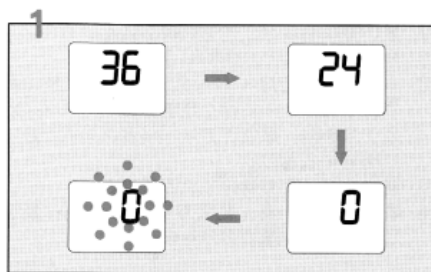
オートフォーカスの苦手な物

オートフォーカス機構は、万能ではありません。右の例のように、写したい物の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。そんなときは、写したい物とほぼ等しい距離にあるピントを合わせ易いものにフォーカスロックをしてください。フォーカスロックについては、32ページをご覧ください。

1. 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
2. 金網・格子など、面積が小さいもの。
3. ネオンや蛍光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているもの。
4. ガラスや鏡、車のボディーなど、光沢があって反射するもの。
5. 速いスピードで動いているもの。
6. 噴水・水面・炎・花火など、形のはっきりしないものや霧の中のもの。

5

フィルムを取り出しましょう [フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう。]



1. フィルムの最後まで撮り終わると、レンズが自動的に収納され巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように **0** が点滅して知らせます。

※ **0** の点滅は、巻き戻しが終了して約5秒間だけ表示されます。

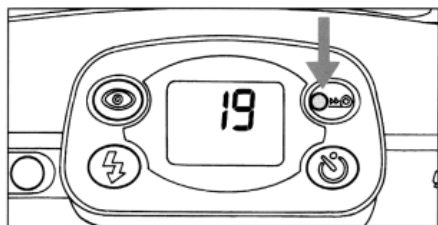
※ 巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。

※ 巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。

※ 巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、すべて巻き込まれます。

2. 裏ふたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

- フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は裏ふたを開けないでください。
- 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムの最後まで進んでから巻き戻しが行われます。



フィルムの途中巻き戻し
フィルムを途中で取り出したいときは、フィルム途中巻き戻しボタンをストラップ留め具の突起で押すと、巻き戻しが始まります。

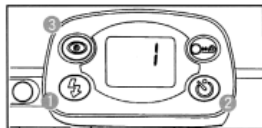
※ 巻き戻しボタンを押すと、レンズが自動的に収納されます。

※ 巻き戻しが終わると、モーターは止まり [0] が点滅して知らせます。[0] の点滅は、約5秒間だけ表示されます。

● ストラップ留め具以外で巻き戻しボタンを押さないでください。巻き戻しボタンを傷付けることがあります。

いろいろな機能の選び方／赤目軽減機能

いろいろな 撮影をしましょう。




①の [ストロボ/バルブ] ボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。

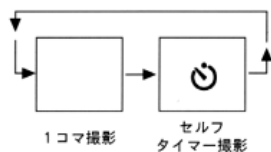


※ 通常の撮影では「オート撮影」に合わせてください。電源スイッチをOFFからONにするるとこのモードになります。

※ 露出方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に①のボタンを押すと「オート撮影」に戻ります。

※ ②の赤目軽減ボタン [赤目軽減] を押して表示パネルに [赤目軽減] を表示させておくと、ストロボ発光直前にセルフタイマーランプを約1秒間点灯させて、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。赤目現象については、46ページもご覧ください。

- ②の  セルフタイマーボタンを押すと、セルフタイマーを選ぶことができます。




※ 通常の撮影では、「1コマ撮影」に合わせてください。電源スイッチをOFFからONにすると「1コマ撮影」になります。

25

日中シンクロ撮影



昼間の明るいときでも、逆光で人物の顔が暗くなってしまうときに、このモードを使うと常にストロボが発光しますので、影の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行いたいときにもご利用ください。

ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに  表示を出します。

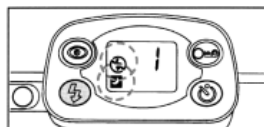
- 日中シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。20ページをご覧ください。



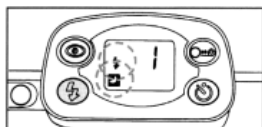
ストロボなし



ストロボ使用 日中シンクロ



低速シャッター撮影



低速シンクロ撮影

暗くてもストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。ストロボを発光させませんので、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真を楽しめます。

ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに 表示を出します。



低速シンクロ撮影

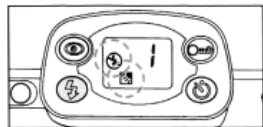
夕景などを背景に人物撮影をするときに使います。

ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに を表示させます。

※ 低速シンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は遅いシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

- 暗い所ではシャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。
- 低速シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。20ページをご覧ください。

逆光補正



逆光で人物の顔が影になっているが、ストロボを発光させたくない場合や、ストロボの光が届かない場合に使います。

ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに 表示を出します。

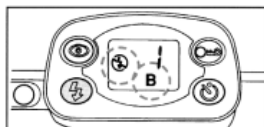
- 薄暗い場所で逆光補正を使うと、シャッター速度が遅くなります。三脚などをご利用ください。



逆光補正なし



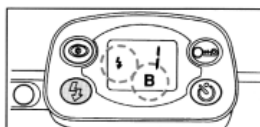
逆光補正



バルブ撮影

花火や夜景の撮影など、シャッターを長時間開き続けて撮影をする場合にご利用ください。

ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに **⚡ B** 表示を出します。



バルブシンクロ撮影

夜景などを背景にした人物撮影に使います。

ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに **⚡ B** 表示を出します。

※ バルブシンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は長時間のシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

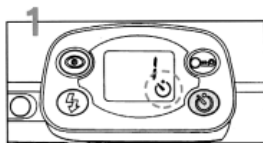


バルブ撮影
ISO400で約3秒の撮影

- ※ カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。
- ※ シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

- バルブシンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。20ページをご覧ください。

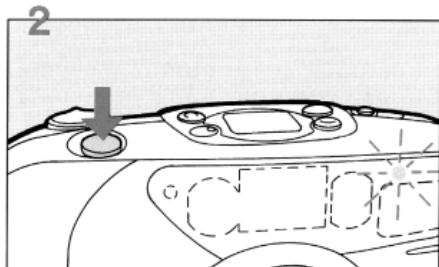
セルフタイマー撮影




撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。

1. セルフタイマーボタンを押して、表示パネルに **⌚** 表示を出します。



- ※ 撮影時は三脚などを使用してください。
- ※ もう一度押すと、セルフタイマーは解除され、1コマ撮影になります。



2. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

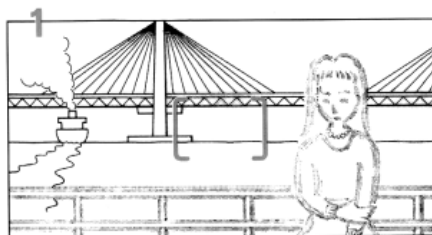
※ セルフタイマーの作動中は、表示パネルの  の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

※ 約10秒後にシャッターが切れます。
 ※ セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、電源スイッチを押してください。[この場合は電源OFFにはなりません。]

- 緑ランプ  の点滅中はセルフタイマーのスタートはできませんので、緑ランプ  の点灯を確認してから、スタートさせてください。
- カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

31

フォーカスロック撮影

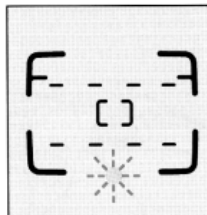



なぜフォーカスロックが必要なのか？

オートフォーカスのピント合わせは、ファインダー内のオートフォーカスフレームの内側で行なわれますから、ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレームから外れていると、写したいものにピントが合いません。

フォーカスロックの方法

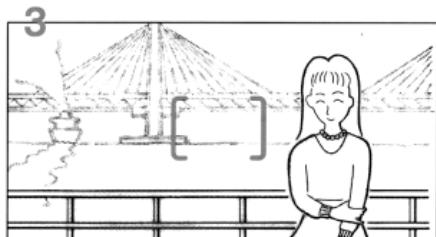
1. オートフォーカスフレームが人物から外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。



2. ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを少し押して、緑ランプ  を点灯したままにしておくと、ピントが固定されます。

※ このとき、露出も同時に固定されます。

32

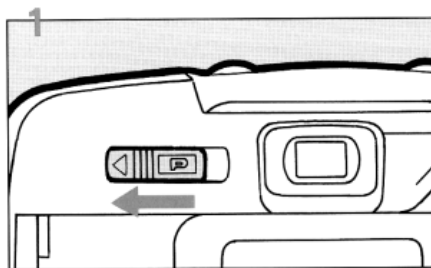


3. シャッターボタンを少し押したまま元の写したい構図にして、シャッターを切ります。

※ これで人物にピントが合います。

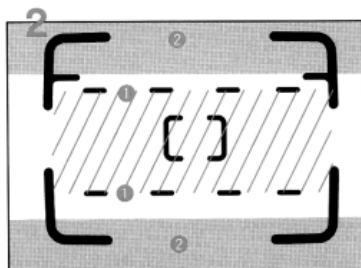
※ フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

パノラマ撮影



このカメラでは、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. パノラマ切り替えレバーを左側に動かします。



2. パノラマの視野枠内[図の斜線部分]に写したいものを入れて撮影してください。

- パノラマ撮影では、日付や時刻の写し込みはできません。
- パノラマに切り替えると、図の②のようにファインダー内にもパノラマ表示が現れて、上下が暗くなります。パノラマ表示は、パノラマ撮影での写る範囲ではありませんので、写したいものは必ず、パノラマ視野枠①[点線]内に入れて撮影してください。
- 1mより近距離でのパノラマ撮影では、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、1 mより離れた撮影をお勧めします。

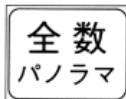
パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像/プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム [パトローネ] に貼り、パノラマプリントをご指定ください。

- パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合→



- フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合→



※ パノラマ撮影の場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。

※ パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけです。撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

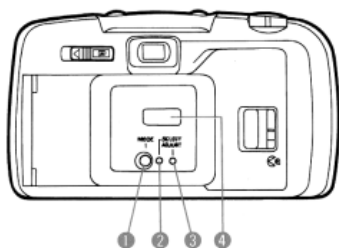


※ パノラマでは、フィルム上に約13×36mmの大きさに画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行いません。ただし、この範囲はズーム位置によって多少違います。

※ パノラマプリントは約89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

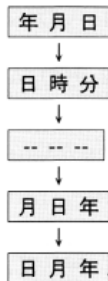


写真に日付や時刻を写し込みます



このカメラは、2019年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、ほぼ正しくセットしてあります。

写し込みたい内容を選びます
①の **MODE** ボタンを爪で押すと図のように表示が変わりますので、希望の表示を出してください。



- ※ デート表示窓に表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。
- ※ 日付や時刻を写し込みたくない場合は、----- に合わせます。
- ※ ③のデート表示窓のMは「月」の位置を示しています。

37

日付や時刻の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンで点滅させた数値を変更します。

※ 1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。

- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

- 日付の修正を行なったときは、必ず時刻の修正も行なってください。

- ※ **SELECT** および **ADJUST** ボタンを押すときは、ストラップ留め具の突起をご使用ください。
- ※ 修正中[点滅表示中]は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。
- ※ 「年月日」表示の「年」は、1994年では「94」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

※ 0秒にセットするには、「日時分」表示のときに②の **SELECT** ボタンで「:」表示を点滅させ、③の **ADJUST** ボタンを時報などに合わせて押してください。

※ 「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。

※ シャッターを切るとデート表示窓の-が点滅し、写し込みが行なわれたことを知らせます。

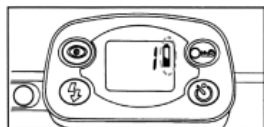
※ パノラマ撮影では日付や時刻の写し込みはできません。



- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい物があると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものがこないようにしましょう。




この写真の数字はハメコミ合成です。

電池の消耗警告

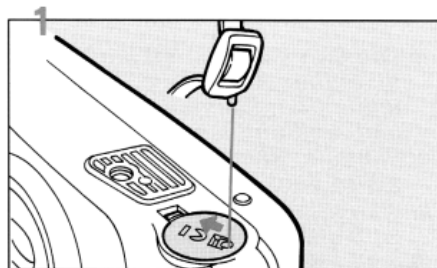


電池が消耗してくると表示パネルに図の  マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。  が点滅になると、シャッターが切れなくなります。

※ 電池消耗マーク  の点灯表示は、電源をOFFにしても約5秒間表示されます。

撮影できるフィルム本数 [24枚撮り]
通常の撮影モードでストロボの使用率が
50%にした場合 約15本
[CR123A電池・当社試験条件による]

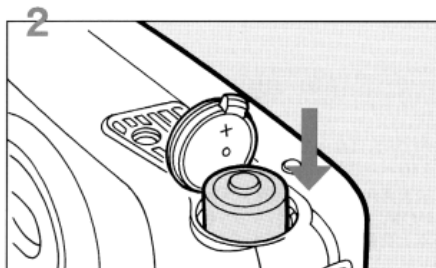
電池の交換 [電源をOFFにします]



1. ストラップの突起を利用して、電池ふたのロックを矢印方向に引いて電池ふたを開けます。

※ 電池の交換は、電源をOFFで行なってください。ONで行ないますと、電池を入れたときにレンズが動いて、カメラを落とす危険があります。

※ フィルム枚数は、電池交換をしてもそのまま記憶されています。

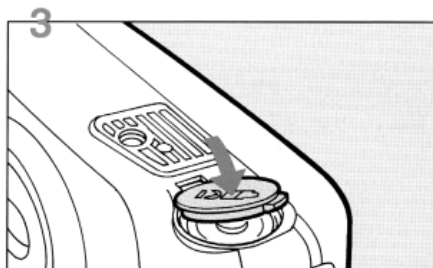


2. 電池ふた裏側の+表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

※ 使用電池は3VリチウムのCR123A相当品1本を使用します。

※ 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。

※ 海外旅行・寒冷地での撮影や写真を撮るときは、予備電池をご用意ください。



3. 電池ふたを矢印方向に押し閉めます。

※ 電池ふたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

- 電池を交換しても正しく動作しないときは、電池の向きを確認してください。
- 電池ふたを開けたときは、日付および時刻の修正を行なってください。[修正は38ページをご覧ください。]

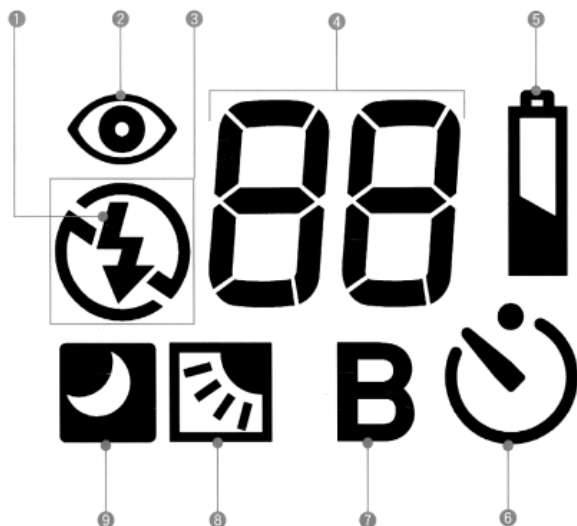
41

こんなときは？ [詳しくは、各ページをご覧ください。]

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： <ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチがOFFになっていませんか。スイッチをONにしてください。[10ページ] ● 電池は入っていますか。電池が消費していませんか。[40ページ] ● 表示窓に [0] が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[14、22ページ]
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： <ul style="list-style-type: none"> ● ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを正しく合わせて撮影してください。[19ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[12ページ] ● 測距窓が汚れていませんか。[19ページ]
症状3：ズームレンズが勝手に収納された。 [電源がひとりでに切れた]	原因・対処3： <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にOFFになります。[10ページ]

症状	原因・対処
症状 4 : 暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処 4 : ● 日中シンクロ撮影になっていませんか。[26ページ]
症状 5 : 表示パネルに H や U などの表示がでる。	原因・対処 5 : ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

表示パネル



各部の名称

① ストロボON	[26 ページ]
② 赤目軽減	[24 ページ]
③ ストロボOFF	[27 ページ]
④ フィルム枚数	[16 ページ]
⑤ 電池消耗警告	[40 ページ]
⑥ セルフタイマー	[30 ページ]
⑦ バルブ	[29 ページ]
⑧ 逆光補正	[28 ページ]
⑨ 低速シャッター	[27 ページ]

液晶表示[LCD]について

- 約 60℃の高温では液晶表示が黒くなる場合がありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなる場合があります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

ストロボ撮影可能距離と赤目現象

ISO100、200、400 以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲[ネガカラーフィルム使用時]

レンズ \ ISO	25	50	800	1600
38mm(◆◆◆)	0.6~1.8m	0.6~2.5m	0.8~10.0m	1.1~14.0m
70mm(◆)	0.6~1.0m	0.6~1.4m	0.6~5.6m	0.6~8.0m

* 高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

このカメラには、シャッターが切れる直前にセルフタイマーランプが約1秒間点灯して、瞳を小さくしてからストロボ撮影を行うことで、目が赤く写るのを目立たなくする「赤目軽減機能」があります。セット方法は24ページをご覧ください。

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口
に直接お持ちください。郵送の場合は、
カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の
衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小
包便でお送りください。不良見本のフィル
ムやプリント、また故障内容の正確なメモ
を添付していただくと原因分析に役立ち
ます。




2. 保証期間中[ご購入後1年間]は保証書[販売
店印および購入年月日が記入されているも
の]をご提示ください。保証書がないと保証
期間中でも修理が有料になります。なお、
販売店または当社各サービス窓口へお届
けいただく諸費用はお客様にご負担願
います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。
運賃諸掛りについてもお客様にご負担願
います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り
後5年間を目安に保有しております。した
がって本期間中は原則として修理をお受
け致します。なお、期間以後であっても修理
可能な場合もありますので当社の各サー
ビス窓口にお問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口で
お手持ちの保証書と交換に国際保証書を発
行しております。[保証期間中のみ有効]

47

主な仕様

- 形式……………ズームレンズ内蔵フルオート 35mm レンズシャッターカメラ[デート付き]
 使用フィルム……………35mmDXフィルム専用[135 バトロネ入り] ISO25~1600 自動感度セット
 [1EVステップ] DX以外=ISO25 固定
 画面サイズ……………24×36mm[パノラマ撮影時は 13×36mm]
 フィルム入れ……………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
 巻き上げ……………自動巻き上げ式
 巻き戻し……………フィルム終了時自動巻き戻し式[巻き戻し時間: 24枚撮りフィルムで約20秒]
 巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
 撮影枚数……………自動復元順算式、巻き戻しに連動[減算]
 外部表示……………表示パネルにLCD液晶表示
 レンズ……………ペンタックス 38~70mmF4.8~8.5 電動ズームレンズ 5群5枚 画角 59°
 ~34.5°
 ピント合わせ……………赤外線アクティブオートフォーカス方式、フォーカスロック付き、測距範囲=
 0.6m~∞[最大倍率約 1/7.6×]
 ズーミング……………電動式
 シャッター……………プログラムAE電子式シャッター=約 1/3~1/320 秒、バルブ、電磁リリー
 ズ式
 セルフタイマー……………電子式赤ランプ表示、作動時間約 10 秒、作動後の解除可能
 ファインダー……………アルパダ式ズームファインダー、視野率 83%、倍率 0.39×[38mm 側] 0.66
 ×[70mm 側]、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠、パ
 ノラマ視野枠、緑ランプ 点灯: 撮影可能・点滅: 近距離警告、ストロボ
 充電中

48


- 露出……………プログラム式自動露出
露出連動範囲[ISO400] オート、日中シンクロ時=EV10~EV17[38mm 側]
EV11.5~EV18.5[70mm 側] 低速シャッター撮影時=EV8~17[38mm 側]
EV8~18.5[70mm 側]
- 逆光補正……………+1.5EV補正
- 露出計スイッチ……………シャッターボタン
- ストロボ……………オートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート=低輝度時自動発光、スト
ロボON=日中シンクロ/低速シンクロ[1/3秒まで使用可能]、ストロボOFF
=発光停止、バルブシンクロ
- ストロボ撮影範囲……………[ISO400 使用時] 38mm 側=0.6~7m、70mm 側=0.6~4m
- ストロボ充電時間……………約5秒 [当社試験条件による]
- 電源……………3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本使用
- 撮影可能本数……………24枚撮りフィルム使用時 約15本[ストロボ50%使用、当社試験条件による]
- 電池消耗警告……………表示パネルに  が点灯、点滅時シャッターロック
- デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[西暦2019年まで、閏年は自動修正]
- データ写し込み方法……………フィルム背面からの写し込み
- データの種類……………①年・月・日 ②日・時・分 ③-- -- --[データ写し込み無し] ④月・日・年 ⑤日・月・年
- 大きさ・質量[重さ]……………134[幅]×74[高さ]×50[厚み]mm 250g[電池別]
- 付属品……………ストラップ、ソフトケース


49



PENTAX® ESPIO70・E



クイックガイド(このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。)こんな写真を撮りたいと思ったときに、下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。



ボタン



 オート
最も一般的なモードです。暗い所では自動的にストロボが発光します。



 日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが発光します。逆光で影になっている人物を撮影するときに使います。



  低速シャッター
暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

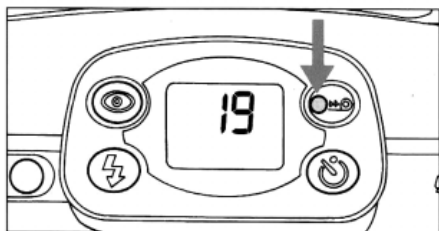
  低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

  逆光補正
逆光の人物撮影で、ストロボを発光させたくない場合やストロボ光が届かない場合に使います。

  バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

  バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

 ボタン
 セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、フィルム途中巻き戻しボタンをストラップ留め具の突起で押すと、レンズが自動的に収納され巻き戻しが始まります。

※巻き戻しが終わると、モーターは止まり **0** が点滅して知らせます。

日付や時刻の修正

1. **SELECT** ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。

2. **ADJUST** ボタンで点滅させた数値を変更します。

※1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。

3. 修正後は、**SELECT** ボタンを押して点滅を止めます。

※**SELECT** および **ADJUST** ボタンを押すときは、ストラップ留め具の突起をご使用ください。

※修正中[点滅表示中]は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。

※0秒にセットするには、「日時分」表示のときに、**SELECT** ボタンで[:]表示を点滅させ、**ADJUST** ボタンを時報などに合わせて押してください。

※「年月日」表示の「年」は、1994年では「94」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。

51

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-04	東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル(24号館)	☎03(3348)2941(代)
ペンタックスフォーラム・大阪	〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎06(271)3960
旭光学 東 京サービスセンター	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地 (土橋交差点交番並び)	☎03(3571)5621(代)
“ 札 幌サービスセンター	〒060	札幌市中央区北10条西18丁目36番地 ペンタックス札幌ビル	☎011(612)3231(代)
“ 仙 台サービスセンター	〒980	仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都会館	☎022(261)5681(代)
“ 新 潟サービスセンター	〒951	新潟市本町通七番町1153番地 新潟本町通ビル	☎025(224)8391(代)
“ 横 浜サービスセンター	〒231	横浜市中央区不老町1丁目6番9号 横浜エフセレントVビル	☎045(681)8771(代)
“ 静 岡サービスセンター	〒420	静岡市丘馬町24番2号 住友建設ビル	☎054(255)6308(代)
“ 名古屋サービスセンター	〒461	名古屋市中区東1丁目19番8号	☎052(962)5331(代)
“ 金 沢サービスセンター	〒920	金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル	☎0762(22)0601(代)
“ 大 阪サービスセンター	〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎06(271)7996(代)
“ 広 島サービスセンター	〒730	広島市中区大手町3丁目7番2号 大東京火災広島ビル	☎082(248)4321(代)
“ 福 岡サービスセンター	〒810	福岡市博多区中洲中島町3番8号	☎092(281)6868(代)
“ お客様相談室	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地 (土橋交差点交番並び)	☎03(3572)6479

※日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラム(新宿)は年中無休、ペンタックスフォーラム・大阪は日曜・祝日を休みます。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒106 東京都港区西麻布3丁目24番20号
交通安全教育センター3F ☎03(3401)2187



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

ペンタックス販売株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目1番1号